



第8306号

2025年4月30日(水)

林野と都市境界の「山火事予防」

防災システム研究所 所長 山村 武彦

今年多発した大規模山火事は、山奥ではなく市街地近くで出火し、延焼や飛び火で多くの住宅を焼失させた。こうした事象を、林野と都市の境界(Wildland Urban Interface)付近で起こる「WUI火災」と呼ぶ。その火災の原因は人為的要因が多く、防ぐには実践的予防策と住民の防災リテラシー(活用能力)の向上が不可欠だ。オーストラリア、米国の予防事例を紹介する。

◆街角ミーティング

オーストラリアのビクトリア州では、山火事シーズン前にWUI区域へ消防署員、警察官、市職員らを派遣している。住民に地域や家ごとの山火事リスクと注意事項などを説明。延焼の恐れのある枯れ草の除去や樹木の伐採、帯状の空き地で火を食い止める「防火帯」の造成、避難方法などについて話し合う。

その上で、住民に「発災時、消防や救助隊がすぐに駆け付けることはできない。情報収集・早期避難は住民自身で判断し実行してください」と伝えている。この「街角ミーティング」が始まると、地域は一気に山火事警戒モードに切り替わる。

◆違反者に反則切符も

「レッドフラッグ・ウォーニング」とは、高気温、低湿度、強風、落雷などの気象条件が重なり、山火事発生の危険度が高まったと判断した際に、アメリカ国立気象局が発表する山火事警告(予報)である。メディアを通じて注意喚起し、消防署、森林事務所などは赤色の旗を掲げ、エリアメール、広報車で警戒を呼び掛ける。

危険度が極めて高い場合は「山火事特別警戒態勢」に入り、警告エリアへ消防車や人員を重点配備し、監視を強化して臨戦態勢にシフトする。

例えば、カリフォルニア州森林保護・防火局の隊員たちは、赤旗が掲示されると住民に対する広報と警戒・監視のために出動。たき火やごみの焼却、バーベキュー、庭の草刈り機など火花の出る器具の使用を取り締まる。隊員には一定の法執行権が与えられ、違反者に反則切符を切ることもできる。

◆危険度を色で表示

オーストラリアのメルボルンの道路や消防署前には、「火災危険度評価標識」が掲出されていた。標識は半円を6色に区分し、その日の火災危険度を矢印で示している。

緑色は低～中リスクで「火気使用注意」、黄色は高リスクで「火気慎重使用」。だいたい色は非常に高リスクで、広域山火事の危険が迫っているため「厳重警戒」、赤色は深刻リスクで「避難準備・情報注意」であることを住民に伝えている。

さらに濃い赤色は極端リスクで「早期避難開始」を、最も危険な状態を示す紫色は壊滅的リスクで「危険区域からの全員避難」を指示している。

山火事リスクが極めて高くなると「屋外火気禁止令」が発令される。キャンプファイアやバーベキューが禁止され、草刈り機やチェーンソーなどの無許可使用も禁止される。地域によっては屋外の喫煙も制限の対象だ。

山火事はかけがえのない人命、財産、森林を奪う。日本でもこうした実践的予防の法整備、住民への意識啓発の仕組みなど、多角的な山火事予防策を構築することが急務である。

(やまむら・たけひこ)

◆監修◆内外情勢調査会

◆委託編集◆時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003